

学校教育目標		子供の笑顔があふれる幸せな学校		重点目標	チャレンジ！ 失敗をおそれず意欲的に挑戦し、多くの学びを実感する子供の育成		
		評価計画		自己評価			改善計画
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)
重点目標 に 対 す る 評 価	自ら学ぶ力 「わかった」「できた」の学びを実感する子供の育成	【授業】 ○ 前時とのつながりから見通しを明確にした、「めあて」を設定する授業	○ 学びを実感できる子供 →福岡県版「授業評価アンケート」「めあてを意識した「まとめを自分の言葉で書くこと、授業で何を学んだのか」を明らかにすることができた。→評価4段階中3.0以上	3	○前時の振り返りから本時とのズレや違い等を意識した授業を心掛けたことで、めあてを書ける児童が増えてきた。 △教師主導になってしまうことが多い。	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 めあてづくりをすることで児童が主体的に学ぶことができるようになるため、よい手だてだと思う。 学力アップに全校あげてここ数年取り組んでいることに敬意を表する。どこでつまずいたか個別に対応されていると思うが、どうしても限界があると思う。 授業における「めあて」の設定はできつつあるので、「まとめ」と児童の授業の「振り返り」を意識した授業づくりを来年度取組指標に加えてもよいのではないかと思う。(高学年) どの学年も学ぼうとする意欲が強くなったように感じられた。 授業を聞く態度については、先生や発表者へ顔を向けて聞いている子が増えた。 習熟度別の授業も基礎・基本の定着につながると思う。 低学年の頃から勉強に対するの興味や面白さなどを感じる力がないと、ノルマをこなすだけの作業になってしまい、どんどん面白くなっていくと思う。 家庭環境や地域全体の問題として、勉強に対して前向きに頑張れる環境づくりが必要である。
		【授業】 ○ 考えたことを練り上げる対話活動を位置付けた授業	○ 単元のテスト「思考・判断・表現」 →学級平均正答率75%	3	△考えを伝え合う活動で終わってしまい、練り上げるところまで至っていない。	A	
		【学力アップタイム等】 ○ タブレットドリル等を活用した基礎基本の問題の反復学習	○ 週に3回の「学力アップタイム」の確実な実施100%	3	○実施を徹底した学級は基礎・基本の定着が見られた。	B	
		【家庭学習】 ○ 自由課題による家庭学習の実施(3年生以上で週2回以上、1・2年生は実態に応じて)	○ タブレットドリル等を使って自分の課題に合った問題に取り組む子供→利用率80%	3	△継続した取組が必要である。	A	
				4	○学期に1回の家庭学習強化週間に合わせて行う大正検定タイムで自ら目標を立てて取り組んだ。	A	
対 す る 評 価	豊かな心 よりよい学校や社会をつくるために、自ら行動する子供の育成	○ 学級会において自他の考えを尊重した話し合い活動 ・発表者の方に体を向ける。 ・理解したことはうなずく。	○ 福岡県版「授業評価アンケート」どの教科の授業も、ひとりで考える場面や、班(グループ)などで考えを交流する場面があり、同じような学習の流れで授業が行われていると思う。→評価4段階中教師評価3.0以上	4	○校内研究とも関連した協働的な学びの時間を意識して取り組むことができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 「凡事徹底」を合言葉にして、掃除、挨拶、履物揃えに取り組んだことで、子供たちが「あたりまえのこと」をできるようにしている。先生方が根気強く指導を続けてきた成果である。 学校行事やESD活動では、活動のねらいを明確にして指導しているので、子供たちが活動を楽しみながら友達とつながり、心が豊かに育ってきていることが分かる。 相手の事を思いやる力は多くの子供に定着してきているような気がする。特に、縦割りの活動は、年上としての自覚を育てるのには良い取組と思う。実際にうちの子供も、末っ子ではあるが、1年生の面倒を見ることでお姉さんとして優しくなったところを多分に感じる。 フラワータウンプロジェクトの取組のおかげで優しい子供たちに育っていると思う。
		○ たてわり掃除の指導と評価 ・定期的な掃除リーダー会の実施 ・活動の場、帰りの会等での評価	○ じぶんのことをふりかえろうアンケート ・だまって黙々と掃除をがんばっている子供→80%	3	△掃除の取組に個人差があり、自分たちの学校を自ら美しくするよさが十分味わえていない。	A	
		○ 生活の規律や習慣についての指導と評価 ・よい行為を取り上げ、ほめる。	○ じぶんのことをふりかえろうアンケート 時間を守って生活をしている子供→80% 元気な挨拶や返事をする子供→80% いつも名札を着用する子供→80%	3	○中休みや昼休みの時間を守って行動できるようになった。 △全員の挨拶は不十分であった。 △名札の着用が習慣化してきたがまだ十分とは言えない。	B	
		特色ある教育活動 持続可能な社会の創り手を育てるESD	○ フラワータウンプロジェクトを通して感性と思いやりの心の育成	○ じぶんのことをふりかえろうアンケート 植物や生物を大切に、自然に親しむ子供→80%	4	○フラワータウンプロジェクトをはじめとした特色のある教育活動を続けたことで、自然に親しむ子供が増えた。	
い じ め 防 止	いじめ防止 「いじめをしない、させない」子供の育成	○ いじめアンケートにもとづく聞き取り→同学年での協議→いじめ防止対策委員会に報告	○ いじめアンケートにもとづく聞き取りや教育相談の実施→100%	4	○保護者へのチェックリストやいじめアンケートを基にいじめを認知し、学校全体で指導できた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 いじめ防止の取組であるアンケートや聞き取りなどの確実な実施がいじめの解消や未然防止につながっている。 言葉遣いについては、松原中校区で具体的な取組を話し合い、共通実践することが急務である。 ほとんどの児童が「学校は楽しくて仕方がない。」というような表情をしている。登下校の様子も友達と仲良くしているように感じられる。 いじめ未然防止対策は、計画的な取組と日々の取組がなされており、今後も続けてほしい。 認め合う意識の高まりは90%を超えているので、評価は上方修正して良いと思う。 いじめ等の話を聞くことがなくなり、先生と子供のすばらしい日々のコミュニケーションのおかげと思う。
		○ いじめを取り上げた道徳の時間の指導	○ 「親切・思いやり」「友情・信頼」の学習において、自分事として考えこれからの実践意欲につながる振り返りをしている児童100%	3	○教材の内容から自分事として考え、議論する授業展開を仕組んだことでこれからの生き方を考える子供が増えた。	B	
		○ 各学級における言葉遣いの指導の徹底(心が温かくなるやさしい言葉、乱暴な言葉、悪口)	○ じぶんのことをふりかえろうアンケート ・人の悪口やちくちく言葉を言わない子供→80%	3	△言葉遣いに乱れがあり、人が嫌がる言葉を使ってしまうことがある。	A	
		○ 児童会の取組の充実 ・挨拶運動、メルシーアーチの活動	○ 友だちのよいところをカードに書き、よさを認め合う子供 →毎月挨拶運動で紹介される児童10名以上、メルシーアーチで友だちのよさを実感した児童100%	3	○カードを児童昇降口前に掲示したことで、児童の関心が高まり、よさを認め合う意識が高まってきている。	B	
不 登 校 防 止	不登校防止 元気に登校してくる子供の育成	○ 福岡アクション3の実施 ・欠席1日で連絡、欠席3日で家庭訪問	○ 学校生活アンケート「登校意欲」→観点別指数学級平均1.2以上	3	△学校と家庭の連携が十分にできていないと、児童の登校意欲を高めることができない。	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童の登校意欲を高めるための対応として、保護者との連携、教職員研修、専門機関との連携など多岐にわたる取組をされている。 不登校等において、多様性という言葉でひとくくりにはされているが、そんなに簡単なことではないと思う。子供自身のわがままと、個性との区別が難しい。
		○ 出欠状況の確実な把握	○ アプリと健康観察による、出席状況→毎日95%以上出席	4	○毎朝確認し、電話連絡も併せて行った。	A	
		○ スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)等関係機関と連携した気になる子供への即時対応	○ SC、SSW等関係機関と連携から前向きになった児童→認知児童100%	4	○関係機関と十分に連携できた。	A	
働 き 方 改 革	意識改革と業務改善	○ 会議資料のペーパーレス化、教材のICT活用、授業資料の共有、他の職員との連携協力、重点化した教育活動の推進	○ 定時退校日以外で、19時の退校時刻を週に1回以上達成できた職員 →100%	3	○資料のペーパーレス化を進めた。また、水曜4校時により、午後に研修会等をまとめたため、他の曜日にゆとりができた。 △時期的な関係からの勤務超過もみられた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 働きやすさと働き甲斐がある働き方改革を進めていく必要がある。 少しずつではあるが、業務改善と意識改革がなされていると思う。 先生方の努力はとても良いことと思うが、健康面を考えると早めの退校日が増えることを願う。

◇ 評価について

- 【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
- 【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである